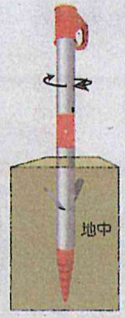


発明品：琉球パラソル「RyuPara(リュウパラ)」

発明者：立神鐵工所
代表 上江洲正直さん



左/パラソルの支柱を掲げる立神鐵工所代表の上江洲正直さんと、パラソルの傘の部分を持つ、上江洲朝江さん。右上/専用のハンドルを用いて、支柱部分を回転させて、砂地にねじ込む際のイメージ図。

下/支柱の先端はドリルになっており、支柱内側に砂の中で開く「羽根」がある。製品に関するお問い合わせは下記へ。

■問い合わせ先/立神鐵工所 ☎098(856)4546 ホームページはhttp://www.tachigami.com/

じんぶと貝聞



監修：
発明協会

商品の特徴

春になり、海辺が気持ちいい。家族や仲間と浜に繰り出した季節になってきた。ところで、砂浜にパラソルやテントを立てて風で飛びそうになったり、倒れてしまい苦労した人は多いのでは。今回紹介するのは、建設用の杭の技術を利用して、風で飛ばされず、倒れないパラソルだ。

発明秘話

立神鐵工所の上江洲正直さん(43)は、豊見城市で鐵工所を営む若き社長。2015年、太陽光パネル事業の経営者と商談の際、「将来、海外の砂漠で太陽光パネル事業をやってみたいが、砂地にコンクリート基礎を打つのは難しい。何かいい方法はないか」と相談された。アイデアを練る中、「杭を地面に打つ際に突起のようなものが出て

風で飛ばないパラソル、世界へ

くれば、砂地に固定できるのでは」と考え、早速工場ですべてを試作を開始した。試作品をビーチの砂地でテストをすると、700〜800kgの抵抗力が出た(通常180kgで抜けてしまう)。「これはいける」と本格的に特許を出願、「ワールドパイル」の製品名で建設用の基礎杭として製品化。第43回沖縄県発明工夫展県知事賞を受賞した。同パイルは太陽光パネルの基礎、フェンスの足場などに使われている。

次に上江洲さんは、この杭が土の地面よりも砂地に適しているのではと考えた。「ワールドパイル」を細くして直径3・2寸の支柱を作成。パラソルの設置法も斬新だ。

取材・執筆
宮川 準



みやかわ・じゅん/一般社団法人 沖縄県発明協会プログラムオフィサー

強風に強い! この夏の必須アイテム
飛ばされにくい!

※女性設置できます!!
(開閉ワンタッチ式)

RyuPara
Ryukyuu Tachigami Steel Works

立神鐵工所 沖縄県豊見城市金良342-1
URL <http://www.tachigami.com/> TEL.098-856-4546
FAX.098-856-4576

販売店、代理店募集

工具を使わず、砂地にねじ込むことができるよう先端がドリル形状になっていて、専用のハンドルで支柱を回転させて砂地に40〜50センチほどねじ込む。羽を出すスイッチを入れると、パラソルを砂地に固定できる仕組み。砂地に食い込む羽根は短いと抜け、長いと折れるため、長さや厚みは工夫のしどころだった。テストを重ね、砂にねじ込みやすいが抜けにくく、砂から抜き出しやすいパラソルの支柱が完成。風が強いとパラソルが裏返ったり回転したり、骨が折れたりなどの課題もあったが、これも試行錯誤。かさの中央部分に風が抜ける隙間を設計。回転しないよう固定器具を付けたりと工夫を重ね、カラフルなパラソルが完成した。

琉球発のパラソルは名づけて「RyuPara」とする予定だ。まずはビーチのあるホテルから売り込みを開始する。「世界中に砂浜はある。オリンピックを控えるブラジルや国際的リゾート地のハワイにも売り込みたい」と抱負を語った。